

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500696		
法人名	グループホーム郷 有限会社		
事業所名	たんぼぼ(既存棟)		
所在地	熊本県熊本市北区植木町宮原177番地		
自己評価作成日	令和5年7月12日	評価結果市町村受理日	令和5年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム横には広い畑があり、野菜の栽培や収穫が出来る。また、家族が面会に来所された場合でも、十分に対応出来る広さの駐車場がある。ホーム内の共用空間には畳の間があり、リラックス促す事が出来る。  
利用者や家族に出来る限り料金の負担をかけないように、低料金にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山鹿に続く幹線道路近くに1ユニットで開設したホームは現在は2ユニット体制となり今年で20周年を迎えている。職員の離職が殆どなく、入居者と職員の穏やかな日常が展開されている。代表者は日頃から入居者一人ひとりの尊厳に配慮した支援、地域(住民や地元消防団など)との交流や連携を大切にすることを職員に伝えながらホーム運営にあたっている。入居者の楽しみである食事は、当初から旬の食材の調達、調理をホームで行うことでコストを抑え家族の負担軽減に繋がる努力を重ねている。地域の人々にとっても楽しみのイベントであったホーム夏祭りもコロナ禍にあり開催を控えていたが、来年は再開を期待する声があがっている。今後も地域の中で新たな年月を重ねていかれる事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「私たちは、ご利用者様を人生の先輩であることを心して、ご家族様と地域のつながりを大切に、ご利用者様の誇りと培った能力や経験が発揮出来る環境をつくり、尊厳のある暮らしを支援します。」に基づき利用者がゆったりとした生活空間の中でのんびりとした日々を送れる様、指導及び介護に取り組んでいる。	開設20周年を迎えたホームでは、この3月に全員で節目の年を祝っている。当初からの理念はしっかりと定着し、職員移動が殆どないホームのケア指針として日々の生活に反映されている。	長年ホームを支えてきた理念であり、年度初回の運営推進会議や今後家族が集まる機会などで改めて理念について話をされることも良いと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕作業に参加、また天気の良い日は、近隣のお寺などに散歩に出かけている。その際、近所の方との交流して挨拶などを行っている。	地域の清掃活動に職員が参加する他、管理者が消防団の一員として活動しており、年末にはホームの配置図や通報装置の確認などを行い、改めて協力体制を築くようにしている。地域へ出る機会は少なかったものの、天気の良い日は午前中敷地内に出て庭の花々を眺めたり、周辺の景色を楽しむことを日課としており、桜見学には地元の名所に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の代表にも参加してもらい、何か心配事や相談事等があれば気軽に相談下さいと働きかけている(本年度はコロナ感染症を考慮し、書面のみでの開催になっている)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、サービス向上につながる様、極力、改善に向けて、取り組んでいる(本年度はコロナ感染症を考慮し、書面のみでの開催となっている)。	運営推進会議を書面審議として開催していたが、本年8月には数年ぶりの対面開催が実現している。会には包括職員や地域、家族代表者、職員代表などが久しぶりに席を共にし、活発な意見が交わされている。長く続いた資料送付による運営報告であったが、今後は直接意見や提案がもたらされることでホーム運営に反映されることが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターに必ず参加してもらい、事業所の実情や取り組み等を報告し、協力関係を取っている（本年度はコロナ感染症を考慮し、書面のみでの開催になっている）。	包括センター職員が運営推進会議に参加しており、互いの情報を共有してホームの現状を見てもらうことで、適切なアドバイスが得られている。行政からの認定調査時は、入居者の声や現状に直接触れてもらうよう各居室で1対1での対応が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないと認識を全職員が強く持ってケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待について委員会の中で研修を開き、資料は運営推進会議の議事録に添付して発送するなどの取組を行っている。ケアマネジャーは普段から職員の意見や話に耳を傾けるよう努めており、入居者個々の人感センサーの使用などについては、プランに入れ家族への説明を行っている。	時間にゆとりがない時などにどうしても「ちょっと待って～！」の言葉が聞かれるようである。危険を伴う場合などを除き、言葉の選び方や使い方について勉強会で統一したり、ストレスチェックを実施する事も一案と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、介護従事者は、虐待は絶対にしない、させないの認識を強く持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は権利擁護についての研修会参加、また勉強会を行い、必要時はいつでも活用出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、家族や本人に十分説明を行い、契約書や重要事項説明書に基づいて理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者と職員が対話し、利用者の要望等何かあれば反映出来る様にしている。又、運営推進会議や家族面会時等においても意見を聞きとり、反映出来る様にしている。	入れ替わりの無い職場環境は入居者と職員の距離が近く、会話の時間を出来る限り多く持つようにしている。入居者の「アンパンを食べたい」「花が見たい、今は何の花が咲いとっただろうか？」など日々の関わりから引き出し、支援に反映するようにしている。家族の意見は面会の機会に投げかけたり、今後は運営推進会議で直接収集するなど、取組が期待される。	家族へ向けたホームへの意見や要望などをアンケートとして収集することも検討願いたい。アンケート内容は職員で話し合い、今後の支援に反映されるようなものを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	食事を職員と同じテーブルで取り、運営に関する意見を提案しやすい様に心がけている。	介護の現場においては、職員不足が叫ばれて久しいが、当ホームでは安定した職員体制となっている。無理のないシフト表や希望休、有休への声にも対応が出来ており、現在、看護職員3名が在籍することで、入居者の日々の健康管理や医療機関との連携もスムーズである。職員は朝の申し送りを入居者の状態を共有し、物品購入などには意見をまとめて検討するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	食事を職員と同じテーブルで取り、職員の希望や要望等を聞いて職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等、職員の希望に応じて参加してもらい、職員の資質向上を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本、菊池ブロックの研修会等必ず1名以上は参加及び、管理者が集まる研修会には必ず他施設との交流を図り、意見交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、本人の希望や不安に思っている事等を聞き、寄り添う様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、家族の希望や不安に思っていること等を聞く様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者の支援相談員としての業務経験を活かして、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本人と一緒に食事を作ったり、同じものを食べたりし、お互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などで来所された時に、本人の日々の様子等、家族に報告し本人の状態を共有する事で理解してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人等が面会に来所された時は玄関先の空気が籠らない場所で話してもらう様にしている(コロナ感染症を考慮し、10分以内の時間制限、距離を置くこと、体温測定施行後の面会を依頼している)。	コロナ禍での家族との面会は時間を決めて対策を施したうえで玄関先で行っており、入居者との関係性が薄れないように配慮している。現在は近所の親戚の方が訪れたり、入居者の散髪を手掛ける理髪店主も馴染みの関係であり、長年地域から来所されている。入居者一人ひとりに役目を担ってもらうことで生活の張りや自信に繋いでおり、洗濯物や野菜の下ごしらえに力を発揮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時間があれば職員が利用者の中に入り、話題提供や交流を図る事が出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても継続的な支援が必要とされる利用者や家族には、かかわりを持つ様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間がある時に一人一人と会話をしながら本人の思いや希望等を聞き、実現できるように努めている。	職員は普段から入居者との会話を通して思いを引き出すようにしている。職員との長年の関わりから安心して話をされており、会話の少ない方であっても、職員の声掛けや話に笑顔で返されるなど意思疎通が出来ており、生活歴やホームでの暮らしぶりから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴などを介護計画にも反映させて、サービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を総合的に把握し、介護計画に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の担当ケアマネや本人、家族の意向等を反映させた介護計画を作成している。	ケアマネジャーの交代に伴い、これまでの情報を引き継ぎ、継続した支援が出来るよう入居後は3か月ごとに評価をしている。コロナ感染症の状況次第では担当者会議を中止することもあったが、できる限り本人や家族等の思いを直接聞きプラン作成に反映させている。理念である「個々の経験や能力が発揮できる環境作り」に添い、朝の身支度や排泄、食事や入浴など日常生活の中で入居者の力が活かされる内容なども盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等を個別記録に記入して職員間で情報を共有し、実践を踏まえながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望等に応じ、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム全体として、地域の民生委員や、駐在所、近所のお店、床屋等と連携し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけ医での定期受診や特診等をする事により、適切な医療を受けられる様に支援している。	入居時にかかりつけ医の希望や夜間対応可能な医療機関について説明をおこない、定期訪問診療や受診支援が行われている。歯科については必要時に協力歯科医に受診に出ている。ホームには看護職員が3名配置されており、医療機関との連携や家族からの相談など安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名、准看護師2名が職員として在職している為、充分日常の健康管理や医療活用の支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時など、サマリーのやり取りや情報交換等、密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期となった時、家族にはその都度迅速に説明を行い、かかりつけ医とも相談及び指示を得ながら支援している。	契約の際看取りに関するホームの方針や取組を伝え、その時点での家族の意向などを確認している。入居後、重度化・終末期支援が必要になった場合、改めて意向を聞き、主治医への相談や指示を受けながら支援にあたっている。看取りに関する研修会を年間計画の中に入れ、資料配布など状況を見ながら取り組んでいる。資料は一人ひとりの最終に向かい合う時の心構えなど、職員のメンタル面に配慮した内容となっている。	今後も日頃の関わりを大切にしながら、ホームに出来得る最良の支援に取り組まれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルの再認識、新人職員の消防署への通報訓練を実施して、実践力の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練の実施、地元消防団とは年に1回火災や災害時の対応についての会議を行い協力体制を築いている。(今年はコロナ感染症を考慮し会議は行っていない)。	毎年3月と10月に災害訓練を実施しており、今月も通報・誘導・水消火訓練を予定している。地元消防団とは開設時より協力体制が構築されており、災害通報装置も消防団につながるなど代表者は感謝を語っている。災害備蓄は発電機や食料として米、台風接近時はインスタント麺を早めに確保している。BCPは作成済みであるが、職員との共有は今後の予定である。	日頃の安全点検は職員が意識を持って取り組んでいることなど、ホームの災害対策について家族へ伝える事で安心につながると思われる。作成されたBCPについて職員との早めの共有が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者に対して敬語で話し、また、誇りやプライバシーを損ねない様な声かけをしている。	入居者の呼称は苗字を基本としているが、夫婦で入居など状況に応じて下の名前でも対応している。入居者の誇りやプライバシーに配慮した言葉使い、対応について会議などで共有を図る他、ホーム内に代表者による啓発に繋がるメッセージが掲示されている。入居者の身だしなみの支援の一つとして髪のカットは、感染症に配慮しながら定期的を実施されている。	離職が殆どない職場環境であり入居者は馴染みの職員と和やかな日常を過ごしている。今後も馴染みの関係が馴れ合いになっていないか等、振り返る機会を持ちながら、変わらぬ支援が継続されていくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に午後の時間帯に入居者の中に職員が入り、対話を多く持つ様にして入居者の思いや希望を表現出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントに基き、ひとりひとりの介護計画を作成し、その人らしい生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に外出時は本人の好まれる身だしなみの支援を行い、理容、美容も本人の希望に沿った支援を行っている。判断等できない方については、職員が声かけを行い、表情を見ながら対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の嗜好や希望を聞き作成している。又、食事作りや片付け等、入居者の出来る範囲で参加してもらっている。	開設以来献立作成や食材の購入、調理をホームで行い、入居者と同じものを摂ることで思いを共有しながら職員にとっても仕事への活力になっている。季節感を取り入れた家庭的な料理は好評で、調理はメインや副菜をユニット間で分けて担当している。近隣や家族からの野菜の差し入れも多く、食事の楽しみを増している。献立への提案や感想、食材切り、片付けなど入居者のできる食への関わりを支援している。	入居者にとって食事は何よりの楽しみと思われ、今後も職員手作りの食事が食卓に並ぶことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ごとにカロリー摂取量を調整している。糖尿病、高血圧の現病者に対しても配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけを行って口腔ケア施行してもらっている。自分で出来ない方は介助して、口腔ケア施行している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に介助を要する人は定期的にトイレに誘導し、排泄チェック表に記入して確認を行っている。	トイレは旧棟2か所、新棟3か所設けられ入居者は居室の近くなど使い慣れた場所を利用されている。現在、リハビリパンツを使用されている方が殆どであるが、布パンツのみで過ごされる方もおられる。夜間のみポータブルトイレやおムツを使う等など個々の状況に応じて支援している。便秘の予防としては、自然排便に繋がる食材の使用や午前を中心にレクリエーションによる軽運動などに取り組んでいる。排泄用品は昼夜の使い分けやコストを検討した業者による納入など、家族の負担軽減に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を含む食品や乳製品を取り入れ、レクリエーションでは体操等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴される方、個人に合わせた入浴対応を行っている。	週3回、午後を中心にマンツーマンでゆっくりとした入浴支援に取り組んでおり、着替えや洗浄などできる事は自身で行ってもらっている。湯温も好みを聞きながら対応しているが、温湯を好まれる方が多いようであり、体調を見ながら調整している。菖蒲や柚子の季節湯は職員も気がけて持参しており、全員が入れる間実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に個人の行動に制限は行っていない。個々人の生活習慣やその時々状況に応じて生活されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後は必ず処方された薬について申し送りを行い、薬の目的や副作用の確認についても充分周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら自分の役割を見つけ出したり、こちらからお願いした内容がいつの間にかその方の役割になったり、入居者全員が何らかの役割や楽しみを持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望や希望があれば、散歩やドライブ、買い物等で外出する機会を充分作っている(コロナ禍続いており、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるような支援は行っていない)。	コロナ5類移行になったものの、まだ家族や地域の協力による外出支援は控えている。敷地内の散歩の継続と春には、職員からの情報で隣の桜の名所へ花見ドライブに出かけている。皆で桜を見上げ「きれいかな～！」と入居者が発せられたことが広報誌で紹介されている。この秋はミカン狩りを予定したいとしている。また、代表者はコロナ禍以前地域住民との交流の機会にもなっていたホーム夏まつりも再開できればと語っている。実現に至る事を願いたい。	車を使った外出は以前より減少しているが、気候の良い時は、庭先に出て散歩や外気浴に取り組んでいる。このような身近な外出についても家族へ伝える事で安心につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や入居者、一人ひとりの希望や力に応じて柔軟に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等希望があれば、そのつど対応している。ダイヤルを回したり、話の内容を伝えたり、必要があれば介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの造りが一般家庭と変わりなく、物品や装飾も家庭的である。また、畳の間があり、足を投げ出してリラックスして過ごす事が出来る。	両ユニットは渡り廊下を通じて行き来が出来るように造られている。開設日が異なる事からそれぞれの共用空間の造りや広さは同等ではないが、ユニット職員が工夫し、季節の壁面を入居者と一緒に作成したり、塗り絵の作品などを掲示している。旧棟のリビングにある畳の間は横になったり、足を伸ばしてもらうなど寛ぎのスペースとして活用されている。	コロナ感染症発生以降、特に換気や日々の掃除に取り組んでいる。今後はリビングや居室などに設置された空調機についても、定期的に掃除の機会を持たれることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士を隣同士の席にしたり、入居者同士自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用されていたタンスなどの家具や食器、道具等の持ち込みを勧めている。	入居前の家族等への説明の中で、布団や衣類、湯呑や箸、写真、アルバムなど使い慣れた品や心の拠り所となる品の持ち込みについて説明をおこなっている。居室には備え付けのタンスが用意されており収納は十分であるが、足りない場合は個々でスタンドハンガーなどを用意されている。中には家族等との連絡用として、携帯を持ち込み充電の管理もされているようである。感染症への対応から現在も面会は玄関先であるが、衣替えは入室して居室内の確認も行ってもらっている。季節外の布団は年間を通して居室に置いている方も多いようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力を十分に活かして自分で出来る事は自力行ってもらい、一人で困難な場合は共同で行う事で支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500696		
法人名	グループホーム郷 有限会社		
事業所名	たんぼぼ(増床棟)		
所在地	熊本市北区植木町宮原177番地		
自己評価作成日	令和5年7月12日	評価結果市町村受理日	令和5年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム横には広い畑があり、野菜の栽培や収穫が出来る。また、家族が面会に来所された場合でも、十分に対応出来る広さの駐車場がある。 利用者や家族に出来る限り料金の負担をかけないように、低料金にしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「私たちは、ご利用様を人生の先輩であることを心して、ご家族様と地域のつながりを大切に、ご利用様の誇りと培った能力や経験が発揮出来る環境をつくり、尊厳のある暮らしを支援します。」に基づき利用者がゆったりとした生活空間の中でのんびりとした日々を送れる様、指導及び介護に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕作業に参加、また天気の良い日は、近隣のお寺などに散歩に出かけている。その際、近所の方との交流して挨拶などを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の代表にも参加してもらい、何か心配事や相談事等があれば気軽に相談下さいと働きかけている(本年度はコロナ感染症を考慮し、書面のみでの開催になっている)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、サービス向上につながる様、極力、改善に向けて、取り組んでいる(本年度はコロナ感染症を考慮し、書面のみでの開催となっている)。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターに必ず参加してもらい、事業所の実情や取り組み等を報告し、協力関係を取っている(本年度もコロナ感染症を考慮し、書面のみでの開催になっている)。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないとの認識を全職員が強く持ってケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、介護従事者は、虐待は絶対にしない、させないの認識を強く持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は権利擁護についての研修会参加、また勉強会を行い、必要時はいつでも活用出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、家族や本人に十分説明を行い、契約書や重要事項説明書に基づいて理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者と職員が対話し、利用者の要望等何かあれば反映出来る様にしている。又、運営推進会議や家族面会時等においても意見を聞きとり、反映出来る様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	食事を職員と同じテーブルで取り、運営に関する意見を提案しやすい様に心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	食事を職員と同じテーブルで取り、職員の希望や要望等を聞いて職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等、職員の希望に応じて参加してもらい、職員の資質向上を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本、菊池ブロックの研修会等必ず1名以上は参加及び、管理者が集まる研修会には必ず他施設との交流を図り、意見交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、本人の希望や不安に思っている事等を聞き、寄り添う様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、家族の希望や不安に思っていること等を聞く様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者の支援相談員としての業務経験を活かして、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本人と一緒に食事を作ったり、同じものを食べたりし、お互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などで来所された時に、本人の日々の様子等、家族に報告し本人の状態を共有する事で理解してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人等が面会に来所された時は玄関先の空気が籠らない場所で話してもらっている(コロナ感染症を考慮し、10分以内の時間制限、距離を置くこと、体温測定施行後の面会を依頼している)。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時間があれば職員が利用者の間に入り、話題提供や交流を図る事が出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても継続的な支援が必要とされる利用者や家族には、かわりを持つ様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間がある時に一人一人と会話をしながら本人の思いや希望等を聞き、実現できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴などを介護計画にも反映させて、サービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を総合的に把握し、介護計画に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の担当ケアマネや本人、家族の意向等を反映させた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等を個別記録に記入して職員間で情報を共有し、実践を踏まえながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望等に応じ、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム全体として、地域の民生委員や、駐在所、近所のお店、床屋等と連携し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけ医での定期受診や特診等をする事により、適切な医療を受けられる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名、准看護師2名が職員として在職している為、充分日常の健康管理や医療活用の支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時など、サマリーのやり取りや情報交換等、密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期となった時、家族にはその都度迅速に説明を行い、かかりつけ医とも相談及び指示を得ながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルの再認識、新人職員の消防署への通報訓練を実施して、実践力の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練の実施、地元消防団とは年に1回火災や災害時の対応についての会議を行い協力体制を築いている。(今年はコロナ感染症を考慮し会議は行っていない)。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者に対して敬語で話し、また、誇りやプライバシーを損ねない様な声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に午後の時間帯に入居者の中に職員が入り、対話を多く持つ様にして入居者の思いや希望を表現出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントに基き、ひとりひとりの介護計画を作成し、その人らしい生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に外出時は本人の好まれる身だしなみの支援を行い、理容、美容も本人の希望に沿った支援を行っている。判断等出来ない方については、職員が声かけを行い、表情を見ながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の嗜好や希望を聞き作成している。又、食事作りや片付け等、入居者の出来る範囲で参加してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ごとにカロリー摂取量を調整している。糖尿病、高血圧の現病者に対しても配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけを行って口腔ケア施行してもらっている。自分で出来ない方は介助して、口腔ケア施行している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に介助を要する人は定期的にトイレに誘導し、排泄チェック表に記入して確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を含む食品や乳製品を取り入れ、レクリエーションでは体操等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴される方、個人に合わせた入浴対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に個人の行動に制限は行っていない。個々人の生活習慣やその時々状況に応じて生活されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後は必ず処方された薬について申し送りを行い、薬の目的や副作用の確認についても充分周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら自分の役割を見つけ出したり、こちらからお願した内容がいつの間にかその方の役割になったり、入居者全員が何らかの役割や楽しみを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望や希望があれば、散歩やドライブ、買い物等で外出する機会を充分作っている(コロナ禍続いており、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるような支援は行っていない)。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や入居者、一人ひとりの希望や力に応じて柔軟に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等希望があれば、そのつど対応している。ダイヤルを回したり、話の内容を伝えたり、必要があれば介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの造りが一般家庭と変わりなく、物品や装飾も家庭的である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士を隣同士の席にしたり、入居者同士自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用されていたタンスなどの家具や食器、道具等の持ち込みを勧めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力を十分に活かして自分で出来る事は自力行ってもらい、一人で困難な場合は共同で行う事で支援している。		